



# プラス ＋ 日報

～確かな情報スクエア～



株式会社岩手日報社

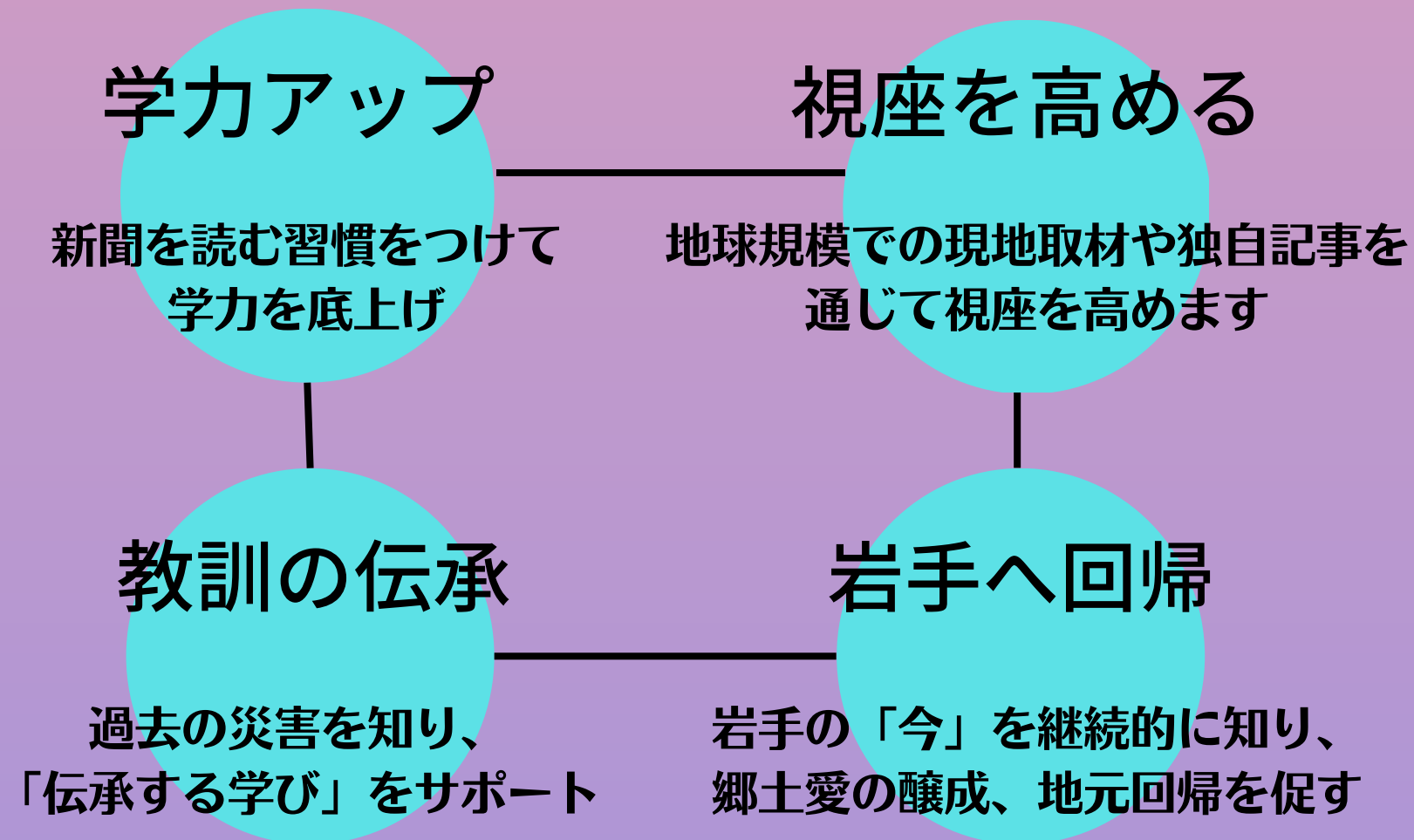
〒020-8622 盛岡市内丸3－7

hanbai@iwate-np.co.jp

019 -653-4117



# はじめに



・岩手日報社は2011年度の学習指導要領改訂に伴って導入された「新聞活用」に合わせて、新聞の活用を促す「出前授業」を展開しています。文部科学省の調査によると、新聞読習慣と学力との間に相関関係があることが分かっています（※1）。

・大リーグで活躍する大谷翔平選手ら海外でプレーする県人の現地取材、南極越冬観測隊への同行取材など地球規模で特派員を派遣しています。また、国立天文台との包括的連携協定に基づき、理学博士の酒井大裕さん（同天文台特任助教）が特任記者を務めています。本紙ならではの独自記事を継続的に読む習慣をつくり、児童生徒の視座を高めます。

・東日本大震災の発生後、地元新聞社の使命として、「命を守る」防災・復興教育を後押ししています。これまでの蓄積を活用し、「伝承する学び」をサポートします。

・岩手に関するニュースを幅広く報じる当社ならではのコンテンツを教材として活用してもらうことで、学力向上に寄与しながら、地元に関心をもち、郷土の未来を担う人材育成、地元への定着を促すプランを提案します。

# 特色

各クラスに岩手日報を継続的に配備。メディアリテラシーの土台に

記者派遣を含め新聞活用  
の方法を提案します

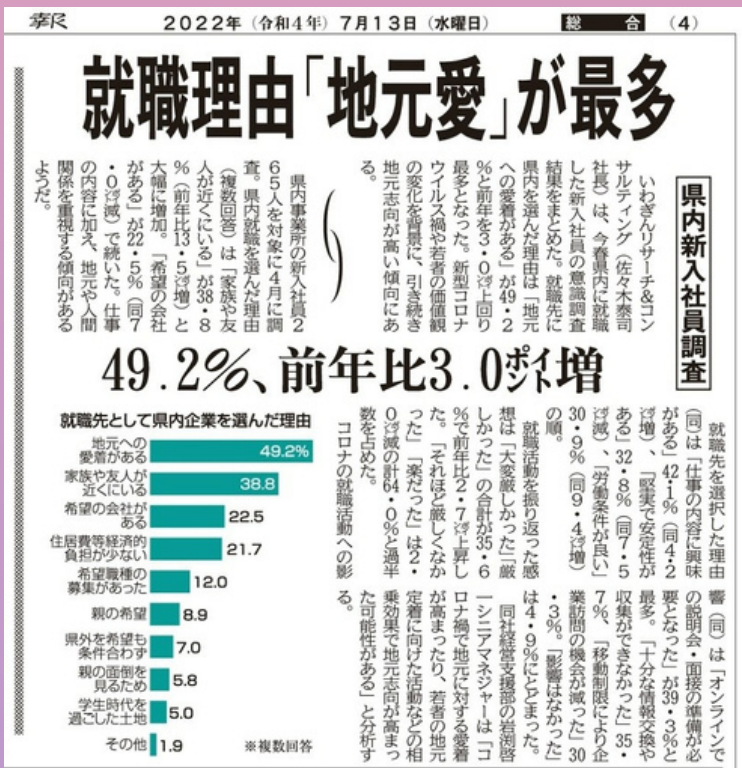
弊社DB検索機能を教材  
づくりに活用。学校現場  
の負担軽減につなげます

- ・ 県内全小学校の5、6年生および中学1～3年生の全クラスに岩手日報紙面を継続的に配備します。児童生徒が誰でも新聞を読むことができる環境を整え、情報化社会を生きる世代のメディアリテラシーを培います。

- ・ 毎週火曜日に掲載する読解力企画や日報ジュニアウィークリーなどを使った授業や朝学習などでの活用事例を紹介。大リーグの現地取材や南極越冬隊の同行取材、特任記者による科学記事など独自コンテンツに基づく出前授業や、防災・復興教育をサポートした実践例などを踏まえ「岩手日報」活用方法を提案します。

- ・ 弊社デジタル版と弊社データベース（DB）検索機能を提供します。さまざまな教科で身近な視点を意識した教材づくりが容易になり、学校現場の負担軽減につなげます。







(休学) 日 報 岩 手 県 2020年(令和2年)4月1日(水曜日) 社会 (2)

# 新聞活用 96%効果実感

岩手日報社は県内の小・高、義務教育学校、特別支援学校の全570校（義務教育学校を中除く）として集計。を対象に、教育新聞「NIE」のアンケートを実施し、回答を得た570校のうち、学習で新聞を用いる学校は75.0％で2018年度に比べ4.7ポイント上昇。「効果が現れる」「やや効果が現れる」と答えた学校が96％で、活用頻度が高いほど効果が上がった。新着指導要領が小学校で完全実施となる20年度を前に、新聞を使った学習の有効性を裏付ける結果となった。

## 県内全校対象アンケート

19年度に授業や朝学習で新聞を活用した学校は413校。このうち小学校209校、中学校174校、高校66校、特別支援学校6校が効果を確認し、「効果が現れる」と答えた学校が見られるは18.6％、7校「やや見られる」は7.7％、321校だった。効果を認めた888校の活用頻度は、明確に「効果が現れる」とな学校が日常的に実践（週1回以上）37.7％、月1・2回程度28.6％と回答。「やや見られる」の学校の活用頻度を大きく下回り、有効性を裏付けた。明確に効果が見えるとした学校は、前年度18.5％や新聞スクラップ19.4％の実践割合が「やや見られる」と答えた学校に比べて、それぞれ、5ポイント高かった。

## 継続活動で学力向上 回答率96.7%

【調査方法】県内の小学校311校、中学校61校、義務教育学校1校、高校66校、特別支援学校16校を対象に1月中旬に調査票を送り3月14日まで511校から回答を得た。義務教育学校は前年度（16年、後期7～9年）に分け、前期用と後期用を中学校として集計。各校別の回答率は小学校98.2％、中学校96.3％、高校98.8％、特別支援学校100.0％。19年度に実施したNIEの取り組みのうち、新聞活用、新聞作りなどに注力している。

具体的な成果の内容（複数回答）は「社会への関心の高まり」が全体の多く「読む力（読解力）」に多くの習の深まり、「書く力」「語彙力」「思考力」の向上が続く。効果と活用頻度の関係を見ると「書く力」についてみると、「日常的に実践」月に1・2回程度の「字が年間数回」とした学校はそれぞれ3割程度高かった。継続的な活動が児童生徒の力につながる結果となった。回答率は96.7％で、18年度調査に比べ1.4ポイント上昇。NIEへの高い関心を示した。

◆ ◆ ◆  
調査結果は4月下旬にNIEのページで詳細報告予定だ。

## 関口コーディネーター（新聞分析

関口修司さん

NIEの実践頻度が高い学校と効果を実感していることが分かった県内、全校対象アンケートの結果を、日本新聞協会の関口修司コーディネーターが分析した。

## スクラップ重点的に

点差は二つある。一つは実践頻度が高いほど効果がある点、二つ目は明確に「効果が現れる」と答えた学校は、スクラップを挙げている点だ。日常的週1回以上のNIE活動が子どもの力を伸ばす要因であることが明らかになった。

新聞を活用する学校が増えている点も目立つ。昨年度教師が「今」を教える教材と認識していたが、今年からは「社会性」を保ちながら、読者の意識を高さを表れたい。高い回答率は調査結果の精度を上げ、客観性の担保になる。（説）

## 現場の意識高さ表れ

2月に公表した全国NIE実践調査結果の類似

# 県学習定着度調査・国語「書くこと」

N・I・E全国大会盛岡大会で授業を公開した松園小5年生は、新聞式の問題の正答率が高い傾向が活用や投稿で学力を伸ばしている。2018年度県学習定着度状況調査の正答率は、国語の領域「書くこと」で県平均の約1.6倍となった。算数でも複数の領域で1.3倍を超え、課題となっている活用問題では4問中3問で県平均を上回り、学校は主眼感を8割、算数で16割上回り、3年

## 正答率県平均の1.6倍

### 松園小5年生、学力向上

「書くこと」は▽段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く▽目的に応じて理由を挙げて意見を書くの2問。それぞれの県平均正答率53%、52%に対し、松園小は91・7%、80・6%と高かった。

算数や社会でも正答率が県平均を大きく上回り、算数の県平均19%の活用問題は、90%に迫る結果

時比べ大きく伸びたという。学校は、新聞活用や投稿の取り組みが読み書きといった学習のベースになる力を上げ、教科全般に波及していると分析。高橋貞司校長は担任の力や個別指導もあるが新聞活用の効果が表れた。読解力と表現力は両輪。子どもたちは問題を読み取る力、考える力を付けて、学習意欲の向上につながっている」と強調する。

手 白 報 2020年（令和2年）2月28日（金曜日）

# 上実感

直後の  
鑑賞市

News in Education  
教育に新聞を

日本新聞協会は27日、教育現場で新聞を活用する「NIE（教育に新聞を）」に週1回以上取り組む学校で、「全国学力・学習状況調査」（全国学力テスト）の平均正答率・全国平均を上回った27アンケート結果を公表した。新聞協会は「NIEは学

方向上が期待できる」としている。

取り組みが週1回以上の  
場合の正答率は、小学校  
で国語が4・8割、算数が  
3・1割、中学校で国語が  
3・6割、数学が2・7割  
に上った。一方、取り組  
み

# 全国テスト平均上回る

日本新聞協会  
アンケート

回数が2月1、2回以下だ  
と、小学校の国語は2・7  
割に上ったが、算数は1・  
0割以下だった。中学校の  
国語は全国平均より1・3割  
高かった。7割低かった  
取り組みの内訳は、新  
聞のスクラップやコラムの  
書き写しを実施する学校  
で、実施しない学校より正  
答率が高くなる傾向があっ  
た。

# 週1回以上取り組む学校

日本新聞協会  
アンケート

デレターターは「授業で新  
聞利用の頻度を増やせば子  
供の力は確実に向上す  
る」としている。

アンケートは全国のNIE  
アンテナ校のうち、小学校36  
校、中学校4校から有効回  
答があった。



# 週1回「教育の日」



2022年10月25日付13面



2022年8月2日付13面

2022年8月30日付日報ジュニアウィークリー

## 記事を読み、クイズを出題

岩手日報の読解力企画「わくわく 読んで 解いて力（パワー）UP」は、子どもたちが新聞記事を読んでクイズを作ったり、解いたり、楽しみながら読解力や思考力、表現力を磨く企画です。学校の授業や朝学習、週末課題、学童クラブの学習活動、家庭での取り組みなどで使われています。

## 「見出し」にチャレンジ

新聞記事のポイントを最小限の言葉で的確に要約する「見出し」。読解力企画のコーナーの一つとして、2022年7月から新たにスタート。読解力、情報分析力、思考力、表現力など、さまざまな力を使って一つの見出しが完成します。

## 週1回、ジュニアウィークリー発行

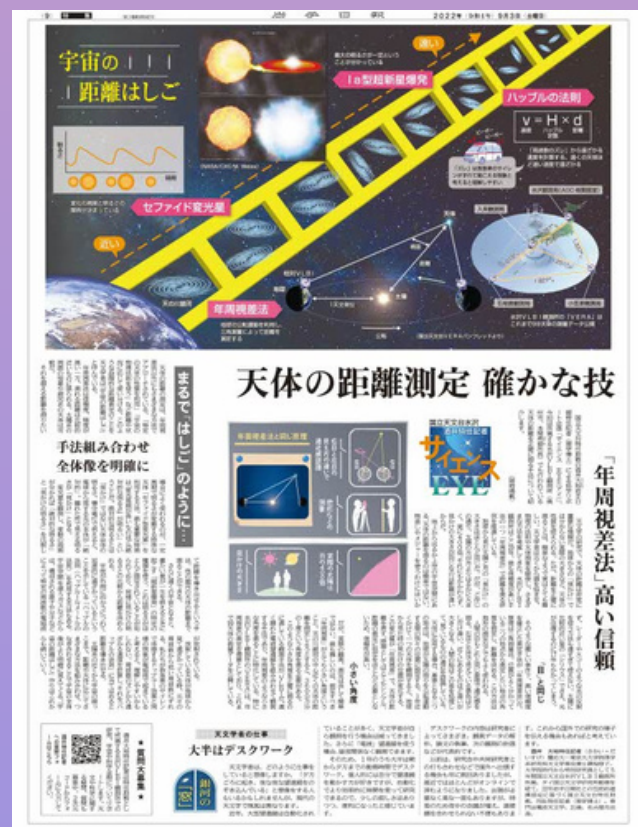
岩手日報社は毎週火曜日、「教育の日」と位置付け、本紙の読解力企画のほか、別刷りの子ども新聞「日報ジュニアウィークリー」を発行しています。タブロイド判8ページの紙面は、低学年の児童でも読むことができるように全ての記事に読み仮名を振っています。旬のニュースや幅広い話題が満載です。



# 岩手から世界、宇宙へ



2022年10月7日付1面



2022年9月3日付9面



2022年6月28日付1面



2021年11月9日付18面

## 県人の活躍を海外から報道

岩手日報社は大リーグ、スキーマのW杯など海外で活躍する県人取材するため、随時特派員を派遣しています。

## 南極の「今」を紙面で

岩手日報社は現在、第63次南極越冬観測隊に同行記者を派遣しています。南極支局を開設し、地球環境のセンサーと言われる現地でのさまざまな観測の様子をリアルタイムで報じています。

## 宇宙、科学を特任記者が解説

岩手日報社は今年7月、国立天文台特任助教で、理学博士の酒井大裕さん＝名古屋市出身＝を特任記者として契約。所属する水沢V L B I観測所での研究、宇宙や科学全般についてのレポートを「サイエンス E Y E (アイ)」として、随時掲載しています。

## 記者、カメラマンの出前授業も

岩手日報社は、記者および特任記者、カメラマンの各教室への派遣を含めて「岩手日報」活用方法を提案します。



# 復興教育を後押し

# 「命を守る」教訓を次世代へ

岩手日報社は東日本大震災以降、将来起こりうる大規模災害に備えて、震災の教訓を次世代に継承する取り組みを進めてきました。津波犠牲者の遺族への取材に基づく紙面、デジタル企画「犠牲者の行動記録」をはじめ、震災に関連したさまざまな紙面企画等を活用して、学校と連携しながら授業を展開しています。

# 自社デジタルコンテンツも活用

震災関連では、沿岸各地に残る津波慰霊碑をVRでたどることができる「碑の記憶」や、釜石市鵜住居町のまちの記憶を伝える特設サイト「鵜住居～UNOSUMAI」などを活用し、学校に配備されたデジタル端末を使った授業プランを提案しています。

# 岩手大と共同アンケート

岩手日報社は2020年、岩手大と共同で防災教育アンケートを実施。同アンケートを分析して、教育現場の「今」を探る紙面企画「いのちの教え」を連載しました。教訓を未来につなぎ、災害の犠牲者を一人でも減らすため、学校で、家庭で、社会で何をすべきか、紙面を通じて、時には学校に出向き、共に考えています。

2019年（令和元年）9月20日（金曜日）

社 会 （32）

## 「碑」学び教訓次代へ

山田高で復興・防災学習スタート



当時の岩手日報のコピーを手に明治、昭和、チリ地震の津波の説明を聞く山田高の1年生

本紙連載記事を活用  
震災の「語り部」目指す

岩手日報社 復興・防災学習スタート

復興・防災学習スタート

復興・防災学習スタート

復興・防災学習スタート

復興・防災学習スタート

復興・防災学習スタート

復興・防災学習スタート

復興・防災学習スタート

復興・防災学習スタート

復興・防災学習スタート

2022年3月9日付18、19面

## 地域連携 どう広げる

東日本大震災11年 防災教育アンケート

学校の指導 継続必要 多数 負担感や疑問の声も

一体的な訓練不可欠 防災の思いを行動に

復興・防災学習スタート

復興・防災学習スタート

復興・防災学習スタート



# データベース検索機能

2021/09/27	2022/10/25	検索	さらに詳しく▶
記事検索結果一覧 673件検索されました。 汎用出力			
1	2	3	4
表示	掲載日	面名	頁
2022/10/25	総合4	5	自社
2022/10/25	地域5	18	その他
2022/10/24	総合3	3	共同
2022/10/24	総合4	4	自社
2022/10/24	総合4	4	自社
2022/10/24	地域1	15	自社
2022/10/24	地域5	18	自社
2022/10/21	シニア	10	その他
2022/10/19	総合4	4	自社
2022/10/19	総合4	4	共同
2022/10/19	地域5	19	自社
2022/10/18	地域3	18	自社
2022/10/18	社会1	23	自社
2022/10/18	社会4	20	自社
2022/10/15	特集02	11	自社
2022/10/15	特集04	13	自社
2022/10/15	総合4	4	自社
2022/10/15	地域5	20	自社
2022/10/15	社会3	23	共同
2022/10/14	総合4	4	自社

キーワード検索で

テキスト形式か、紙面体裁で表示

2021/09/27	2022/10/25	検索	さらに詳しく▶
記事検索結果一覧 673件検索されました。 汎用出力			
1	2	3	4
表示	掲載日	面名	頁
2022/10/25	総合4	5	自社
2022/10/25	地域5	18	その他
2022/10/24	総合3	3	共同
2022/10/24	総合4	4	自社
2022/10/24	総合4	4	自社
2022/10/24	地域1	15	自社
2022/10/24	地域5	18	自社
2022/10/21	シニア	10	その他
2022/10/19	総合4	4	自社
2022/10/19	総合4	4	共同
2022/10/19	地域5	19	自社
2022/10/18	地域3	18	自社
2022/10/18	社会1	23	自社
2022/10/18	社会4	20	自社
2022/10/15	特集02	11	自社
2022/10/15	特集04	13	自社
2022/10/15	総合4	4	自社
2022/10/15	地域5	20	自社
2022/10/15	社会3	23	共同
2022/10/14	総合4	4	自社

## 2004年以降の記事を収録

岩手日報に掲載された豊富な地域ニュースから政治・経済・文化・スポーツまで、幅広いテーマの記事を検索できます。2004年以降の記事をテキスト形式と、新聞紙面スタイルの記事として収録。日々アップデートしています。キーワードを入力することで、これらの記事の中から調べたい事柄が簡単に検索できます。

## 授業に活用、教材作りが容易に

新学習指導要領では、多くの教科に「新聞の活用」が盛り込まれています。これまで岩手に関する正しい情報入手する手段は限られていましたが、弊社データベース検索機能を活用することで、国語や社会をはじめ、さまざまな教科で、身近な視点を取り入れた教材づくりが可能になり、学校現場では教材作成の負担が減ります。データベースの利用を通じて情報検索の仕方を子どもたちに学ばせることもできます。



# データベース検索機能



掲載日での検索も可能です。  
テキスト形式の表示もできます



## 学習のテーマ探しや進路指導に

医療」「福祉」「環境」「少子高齢化」「人口減少」「まちづくり」「防災」など分野別、課題別に記事を効率的に収集でき、総合的な学習のテーマ探しや進路指導にも役立てられます。新聞記事は信頼性が高く、レポートや試験問題の作成などにも活用できます。

## 小論文学習や入試対策に

弊社データベースに収録している地域情報は他メディアを圧倒しており、身近でタイムリーな話題が授業に使えます。論説や朝刊1面のコラム「風土計」は、起承転結が明確な文章で、小論文の練習や自分の考えをまとめて話す学習に役立ちます。近年の入試問題は、大学・高校を問わず、時事問題や論述問題が多く出題される傾向があり、新聞を読んでいれば解答できる問題も目立ちます。データベースを使って主要ニュースを振り返るなど、受験対策としても活用できます。



# デジタル版の機能



・ デジタル端末を使って、岩手日報紙面を読むことができます。



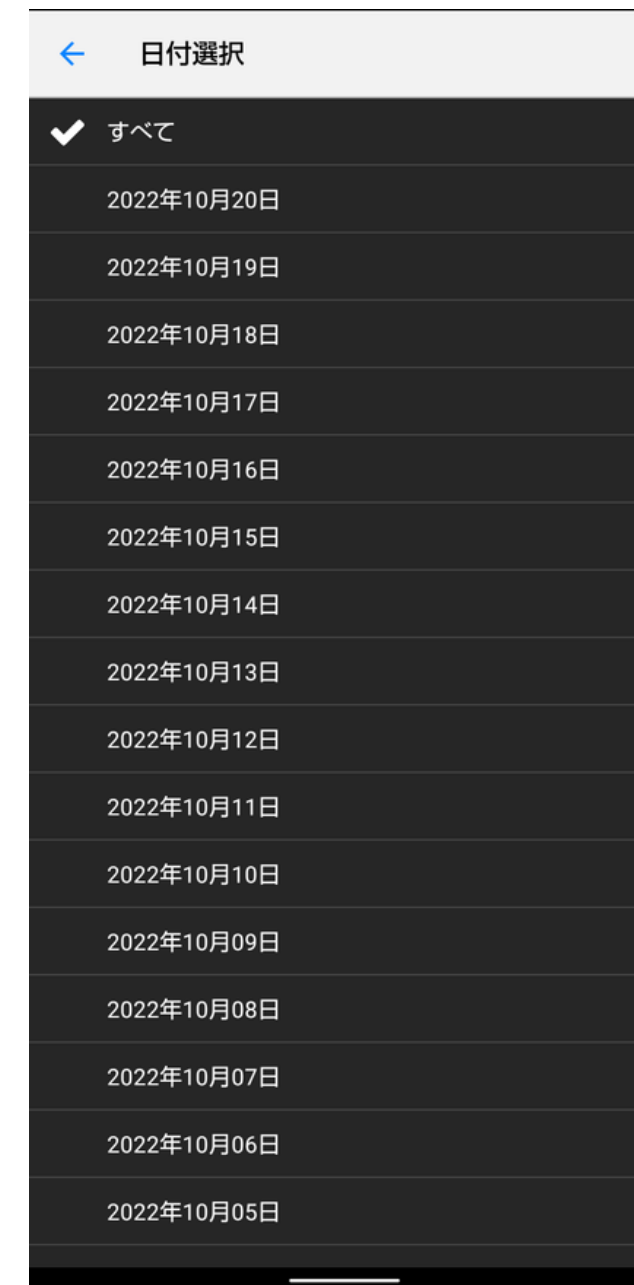
・ 気になった記事は切り抜いて、保存することができます。



# デジタル版の機能



・ 過去30日分の紙面を読むことができます。



・ 朝刊のほか、ジュニアウィークリー、号外、別刷り特集などすべての紙面を読むことができます。



## 「＋日報」の料金、概要

- ・原則、岩手県内の小学校5、6年生および中学校全学年の全クラスが対象となります。ご要望があった高校でも試行する予定です。

- ・各学級に岩手日報紙面1部を配備するほか、弊社データベース（DB）検索機能と弊社デジタル版をセットでご提供します。

（※参考価格＝岩手日報の定期購読料金月額3,400円＋定期購読者限定のデジタル版月額500円）

- ・長期休みは原則、新聞のお届けはお休みしますが、学校側のご意向を伺い、必要に応じて対応いたします。チラシ折込は原則ありません。

- ・トライアル期間となる2023年度は当初、有料を予定していましたが、DB検索機能の使用開始が2学期途中にずれ込む可能性があり、無料でご提供します。ただし、実践事例等を報告いただくレポートへの協力をお願いいたします。

- ・本格実施する2024年度の料金につきましては、現在調整しております。別途ご案内いたします。



# 問い合わせ先

本件につきまして、お問い合わせ等がありましたら、下記連絡先まで遠慮なくご連絡ください。

「+(プラス)日報」プロジェクト事務局（岩手日報社総合メディア局＝担当：八重樫卓也、電話019・653・4124、携帯電話090・4554・1192、アドレス [yaegashi.takuya@iwate-np.co.jp](mailto:yaegashi.takuya@iwate-np.co.jp)）

